

## 日立産業制御 Vol. 6 | 2017.03 インフォメーションレター

### 株式会社 福島情報処理センター様「安否確認システム」導入事例 社員の安否確認のためのクラウドサービスを導入

株式会社 福島情報処理センター様は、  
”緊急招集・安否確認システム安否の番人”による  
「安否確認クラウドサービス」を  
ご利用いただいています。  
導入のきっかけをはじめ、  
ご利用になられてのお話を伺いました。

「今いる場所で指揮をとり続けられるのか？」  
代表取締役常務 菊地 修 様



### 【インタビュー】福島情報処理センター様にお話を伺いました

#### 導入のきっかけ

##### 東日本大震災で被災されたと伺いました

はい。今回の東日本大震災のような日本の一部が止まるような事を想定したBCPは策定しておらず、放射線も想定外でした。食料の備蓄や発電機を用意し、宿泊訓練もしていたのですが、まさかここ（郡山）からの退去を検討するほどの事態になるとは考えもしませんでした。

##### 震災時の安否確認はどのように行われたのですか？

個人情報保護の観点により社員の連絡先を収集しておらず、安否確認は個人レベルで把握している連絡先で、つながるまで何度も電話をかけたり、実際に家に行って確認しました。幸いなことに全社員が無事でしたが、休暇で家族にも行き先を告げずに旅行に行っていた社員の安否確認には時間がかかりました。

『人間のコミュニケーションでも何とかなるな』と思いましたが、同時に連絡先の管理や集計の迅速化などの必要も感じました。

##### 特にどのようなことで困りましたか？

電話はかけ続けるとつながるのですが、電池がなくなって充電ができないので連絡に困りました。それと、人として当たり前なのですが、自分の家や家族が気になるため、安否が確認できるまで業務に集中できない社員が多かったです。

#### 震災後の自社の取り組みについて

さきほどの食糧備蓄や発電機のほかに、携帯電話の契約をキャリア各社に分散することで“電話のつながりやすさ”を平準化したり、ガソリン車だけでなくディーゼル車も導入しました。またホイールローダーも導入し「業務に支障の出るほどの大雪」があったときに、雪かきで活躍してくれました。また、緊急時の連絡手段として災害ダイヤル（伝言）を利用することを決め、使用方法を書いたカードも配布しました。

##### しっかりとした連絡体制が構築できたのですか？

いや。それが定着しませんでした。使う機会があまりなく、操作方法が覚えられないことに加え、実際に大きめの地震があった場合、例えば当社が運用するデータセンターなどでは、当直の社員に状況を確認するために直接電話をかけることのほうが多かったです。そのうえ、電話をかけられるとその対応で時間を取られ、当直の作業員が調査・確認に行くための足を引っ張ることになり、それも問題になりました。そんなときに「安否の番人」の紹介を受けました。

次ページへ▼



左：総務部リーダー  
梶山 洋治 様  
右：代表取締役常務  
菊地 修 様

### 安否確認システム「安否確認クラウドサービス」とは



従来のサーバ構築型に加え、ご要望が多かった「クラウド型サービス」を2016年4月より提供開始しました。サーバ型よりも「安価」で「導入までの期間が短い」ことで、ご好評をいただいています。実際に東日本大震災で稼働した実績のノウハウを活かし、中小規模で必要な機能を厳選してパッケージ化しました。

安否確認などに

¥12,300/月から

家族オプションあり

※税抜き、100名以下の場合

## 導入の決め手

### 「安否の番人」のどこに魅力を感じましたか？

ひとつに安価であること。また、100名単位で料金が設定されているので、規模に合わせて選べる点、そして東日本大震災での運用実績がある点を評価しました。

### 導入に際して、何かご苦労はありましたか？

導入に際して文句が出たり、個人情報を入力することに抵抗があるかと思いましたが、全然そんなことはありませんでした。やはり震災を体験しているため、必要性を感じているようです。また、苦労ではなく、よかった点なのですが、個人情報がシステム側で管理され守られているため、入力する社員本人しか見られず、会社として内容を把握する必要がなく、個人情報管理の負担が少なくてすみました。

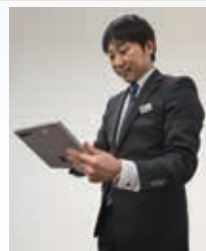
### お使いになられて、いかがでしょうか？

通知メールに対して携帯電話などで簡単に回答できるので、使い方に悩むことも無いですね。管理者は回答状況や集計結果をすぐ見られるので、対応や対策をすばやく練ることができます。連絡メールのテンプレートもいくつか作ったので、例えばパンデミックが発生した際も、すばやく通知・集計を行える準備が整いました。

### 本サービスならではの利点はありましたか？

震災の経験や対応を講演することがあるので、各社の取り組みや対策を聞く機会があるのですが、皆さん本当に災害が発生した場合に、『今いる場所で指揮をとり続けられるのか?』という点に思いが至っていないと感じます。

拠点から避難せざるを得ない場合、サーバは持って行けません。その点、クラウド型のサービスは携帯電話から発信・回答ができ、管理者も避難先からタブレット端末で集計結果を参照、指示が出せるので、可用性が高いですね。



タブレット端末で場所を選ばず状況確認

## 今後の取り組みについて

訓練を何回か行って、社員に利用に慣れてもらいます。家族向けのサービス導入も検討したいですね。システム自体についても、実際の利用現場での生の声を挙げるので、継続的な改良を期待したいですね。

### 最後にメッセージをお願いします

最初に心配するのは「人」なのです。モノが倒れて壊れても、それを直すよりも「人」の安否確認をすぐにやって「異常なし/あり」を把握することが重要です。

ありがとうございました。

## 【ご紹介】安否確認クラウドサービス」機能紹介

### 出張者応答対応



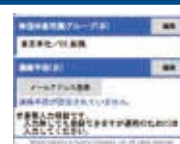
出張などで、システムに登録した勤務地・居住地以外の場所にいる時に震災にあった場合、安否確認メールの対象外となります。そのような場合でも、システムにログインすることで、自分の安否を自主回答することができます。フレキシブルな運用で社員の回答を収集することで、万が一の場合の状況把握に貢献します。

### 家族オプション



家族(最大5名)の連絡先、居住地を登録することで、本サービスによる安否確認が利用いただけます。  
※社員とその家族のみ結果参照可能(管理者でも参照不可)

### 簡単メールアドレス登録



個人端末(携帯、スマートフォン)にて管理画面の[メールアドレス登録]のボタンを押し、生成されるメールをそのまま送るだけで登録が完了します。入力間違いを防ぐことができます。



社名：株式会社福島情報処理センター  
代表取締役：鈴木正博  
設立：昭和40年8月  
資本金：2,000万円  
事業内容：行政(自治体)向けサービス・企業(法人)向けサービス  
医療・福祉サービス

従業員数：230名  
本社：福島県郡山市桑野三丁目18-24  
事業所：会津営業所・須賀川営業所  
関連会社：福島コンピューターシステム株式会社  
株式会社アシスト福島  
ホームページ：http://www.fic.co.jp



本紙の情報は、2017年3月時点の情報です。

製品の改良により予告なく記載されている仕様と変更される場合があります。

●「安否の番人」は、株式会社日立産業制御ソリューションズの登録商標です。

●この資料は国内向けに提供する商品/サービスの情報です。

●製品仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

●本製品を輸出等される場合には、外国為替及び外国貿易法の規則ならびに米国の輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。

なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

安否の番人 クラウド 検索

営業統括本部 〒110-0006 東京都台東区秋葉原6番1号 秋葉原大栄ビル (03)3251-7240  
北海道営業所 〒060-0002 北海道札幌市中央区北二条西4丁目1番地 札幌三井JPビルディング (011)221-1383  
東北営業所 〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町四丁目1番25号 東二番丁スクエア (022)266-7240  
茨城支店 〒310-0011 茨城県水戸市三の丸一丁目4番73号 水戸三井ビル (029)221-2770

中部支店 〒460-8435 愛知県名古屋市中区栄三丁目17番12号 大津通電気ビル (052)259-1241  
関西支店 〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島二丁目3番18号 中之島フェスティバルタワー (050)3154-3863  
中国営業所 〒730-0036 広島県広島市中区袋町5番25号 広島袋町ビル (082)248-2838  
九州営業所 〒814-0001 福岡県福岡市早良区百道浜二丁目1番1号 日立九州ビル (092)844-7636

人々の生活を安全・安心で豊かにするため  
優れた技術で新しい価値を提供し、社会の発展に貢献する

株式会社 日立産業制御ソリューションズ

発行元 ●担当：経営戦略本部 広報・渉外部  
●TEL：0294-52-8657(日立内線：8973-4256)  
●E-mail：gijyutsunews.biz.kt@hitachi.com  
http://www.hitachi-ics.co.jp/